

講演の集い

マス・メディアとジャーナリズム精神

防衛費倍増、敵基地攻撃能力の保有という戦後日本の防衛政策（専守防衛）の大転換、完全な原発回帰という「福一事故」の悲惨な経験を見逃した原発政策の大転換、学問の自由に対する権力の介入政策（表現の自由、報道の自由にも密接に関連）である学会会員任命拒否の継続・・・そして、放送法にかこつけた権力によるマスコミ・コントロール。

このような国の今後の進路に関わる政策の大転換が粛々と進んでいます。その理由の大きな一端は、マス・メディアの権力に対する自粛・忖度にあると思われます。今こそマス・メディアは、ジャーナリズム精神に立ち返り、事実と真実に基づいて今からでも各政策の中身を検証し時には「メディア・スクラム」を組んで国民の立場に立って権力監視の役割を果たすべきであると思います。同時に私たち国民・市民も、そのようなマス・メディアの活躍に大きな声援と支援をすべき時であると思います。

今回は、マスコミ分野で活躍されている岩崎貞明さんに、マスコミをめぐる時評について伺いし、私たちは今どのように考えどのように行動すれば良いのかの指針を得たいと思います。多数の皆様のご参加をお待ちします。



講師／岩崎貞明氏（いわさき さだあき）

1986年テレビ朝日入社 報道局記者・ディレクター・デスクを務める
2001年からメディア総合研究所事務局長・『放送レポート』編集長（現職）
2014年～19年専修大学文学部人文ジャーナリズム学科特任教授、立教大学、明治学院大学兼任講師等を勤め、現在日本民間放送労働組合連合会書記次長・同、放送スタッフユニオン書記長を兼任
共著書に『現代ジャーナリズム事典』（三省堂）『放送制度概論』（商事法務）『ユーザーからのテレビ通信簿』（学文社）など。

■とき：2023年8月19日（土） 13:30～16:00

■場所：仙台弁護士会館（青葉区一番町2-9-18）

【入場無料】

主催／マスコミを語る市民の会 宮城

090-9530-8558

080-6010-3022